

脱炭素コンサルティング

サプライチェーン排出量の算定、脱炭素化の取組みをサポートします

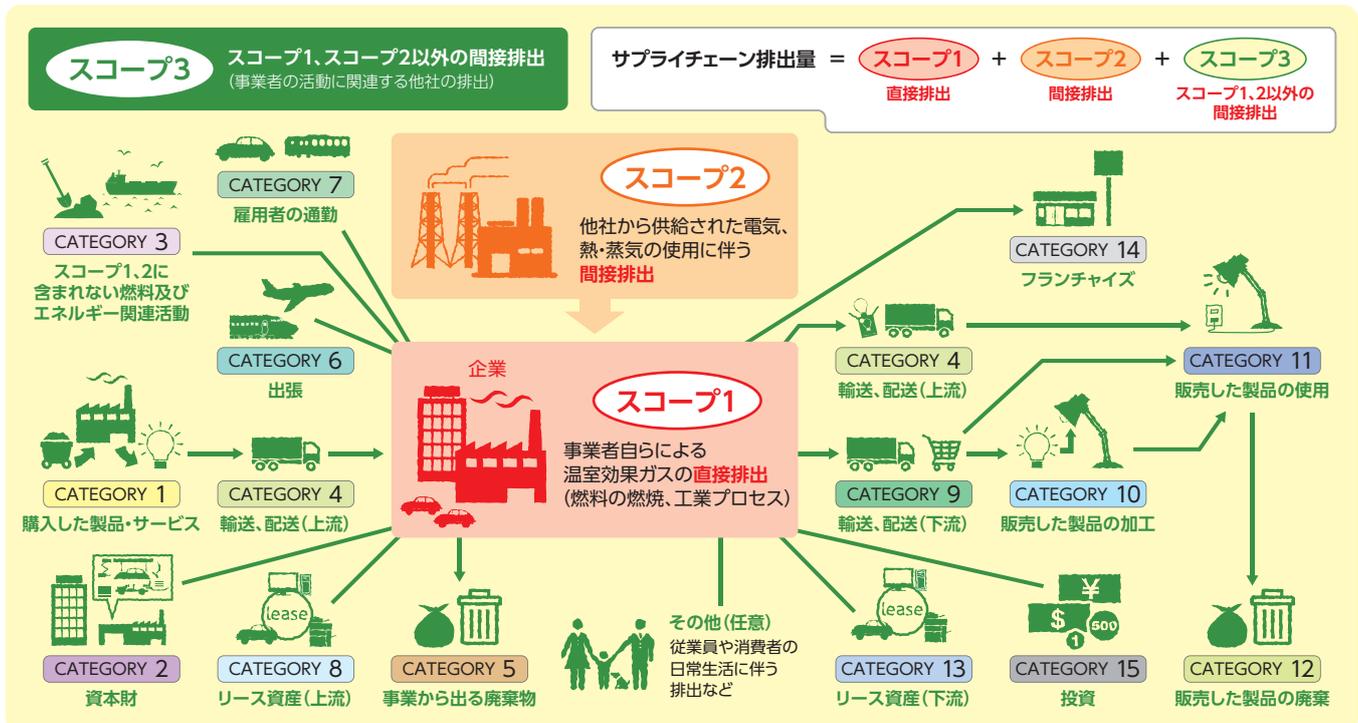


2022年4月の「改正地球温暖化対策推進法」施行に伴い、脱炭素経営へ方針転換が求められ、取引先を含めたサプライチェーン全体の脱炭素化対策を進める動きが企業において急速に広がっています。自社のGHG*排出量を可視化した上で削減目標を設定し、脱炭素化への取組みを公表することで、競合企業との差別化、競争力向上を図り、取引先や多様な人材に選ばれ続ける強い企業へと生まれ変わります。

*GHG:温室効果ガス(GreenHouse Gas)

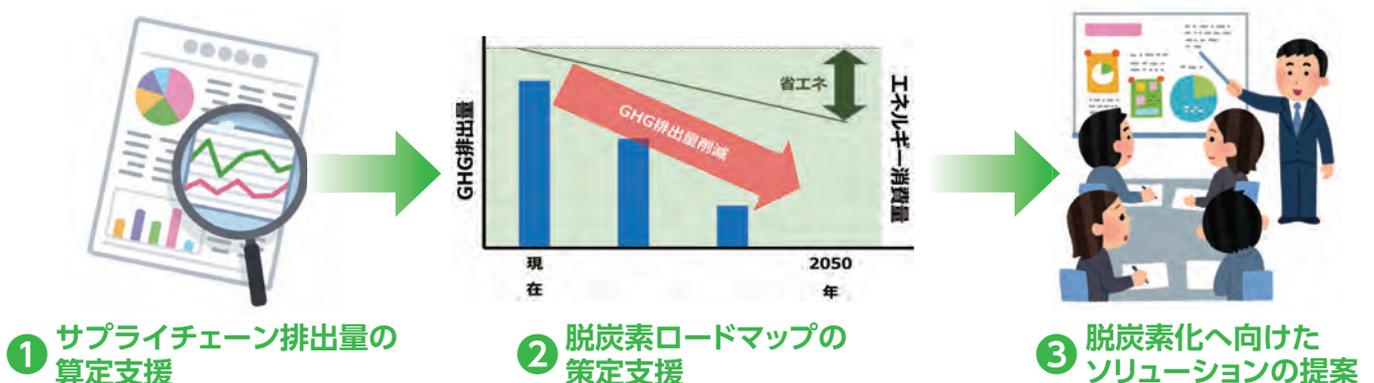
サプライチェーン排出量とは

サプライチェーン排出量とは、原材料の調達から製造・使用・廃棄まで、企業活動の全体的な流れの中で排出されたGHG排出量のことです。企業活動の中で、GHG排出量が多い箇所、効果的な削減対策が実行可能な箇所を把握します。



出典:「物語でわかるサプライチェーン排出量算定」(環境省) (https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/tools/Supply-chain_A4.pdf)を加工して作成

サプライチェーン排出量算定から削減目標の設定まで一貫してサポート



サプライチェーン排出量算定から削減目標の設定まで一貫してサポート

▶ ① サプライチェーン排出量の算定支援

各カテゴリに該当する燃料使用量や、資材購入量等のさまざまな情報をお客様よりご提供いただき、GHGプロトコル※に基づき、サプライチェーン排出量を算定します。

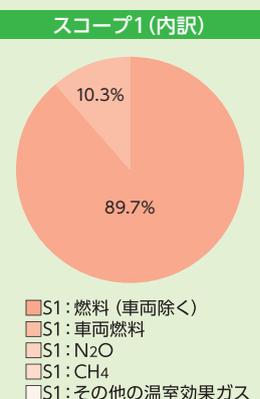
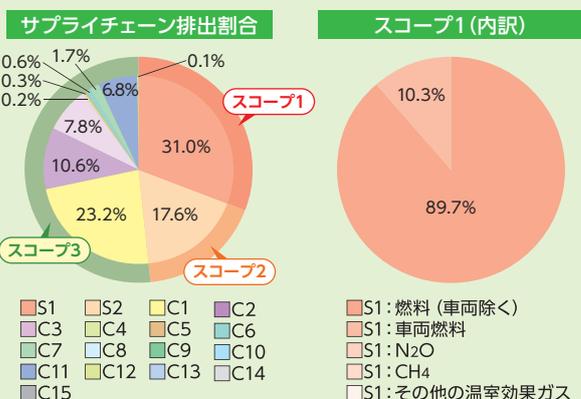
※GHGプロトコル:温室効果ガスの排出量を算定・報告する際の国際的な基準です。

サプライチェーン排出量算定結果(イメージ)

2022年5月1日

会社名:株式会社●●●●

		2020年度	
		排出量 (t-CO ₂)	割合 (%)
スコープ1	(S1) 直接排出	1,736	31.0
スコープ2	(S2) エネルギー起源間接排出	989	17.6
スコープ3	(S3) スコープ1・2以外の間接排出	2,884	51.4
カテゴリ1	(C1) 購入した製品サービス	1,302	23.2
カテゴリ2	(C2) 資本財	596	10.6
カテゴリ3	(C3) スコープ1・2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	439	7.8
カテゴリ4	(C4) 輸送、配送(上流)	12	0.2
カテゴリ5	(C5) 事業から出る廃棄物	19	0.3
カテゴリ6	(C6) 出張	32	0.6
カテゴリ7	(C7) 雇用者の通勤	97	1.7
カテゴリ8	(C8) リース資産(上流)	-	-
カテゴリ9	(C9) 輸送、配送(下流)	-	-
カテゴリ10	(C10) 販売した製品の加工	-	-
カテゴリ11	(C11) 販売した製品の使用	382	6.8
カテゴリ12	(C12) 販売した製品の廃棄	4	0.1
カテゴリ13	(C13) リース資産(下流)	-	-
カテゴリ14	(C14) フランチャイズ	-	-
カテゴリ15	(C15) 投資	-	-



スコープ別排出量経年変化



▶ ② 脱炭素ロードマップの策定支援

サプライチェーン排出量算定結果をもとに、中長期的な環境負荷削減戦略や事業戦略の策定に資するサプライチェーン排出量の削減目標達成に向けたロードマップの策定を支援します。

▶ ③ 脱炭素化へ向けたソリューションの提案

優先的に削減すべき対象項目を特定し、「創エネ」「蓄エネ」「省エネ」や「主要資材変更」等各プロセスに応じたソリューションを提案し、脱炭素化へ向けた取組みをサポートします。

創エネ

風力発電
太陽光発電

蓄エネ

EV・FCV
燃料電池
蓄電池

省エネ

高効率空調
高性能ボイラ
高効率
コージェネレーション
変圧器 など

▶ ④ SBT認定取得サポート

持続可能な企業であることをステークホルダーに対しアピールすることを目的としたSBT (Science Based Targets) ※認定の申請を支援します。

※SBT (Science Based Targets): パリ協定が求める水準と整合した、5年~10年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標。

お客様のニーズにあわせ、段階的にサポートします。